



第29章 財務分析と計画 (p317~p351)

2014年4月30日

担当:奥(修)

29. 1 財務諸表

† 財務諸表とは…貸借対照表や損益計算書などのこと

ステークホルダーたちは、財務諸表から企業の情報を入手している。

† 財務諸表作成に関して、会計士が多くの裁量権を持つ

国毎に会計ルールが異なるため、同時期同企業でも財務諸表上の数字が変わる恐れがある。

29. 2 エグゼクティブ・ペーパー社（以下 EP 社）の財務諸表

† 貸借対照表…流動資産（現金、有価証券など）、固定資産（土地、工場など）

流動負債（短期借入金、買掛金など）、長期負債、株主資本などが載る

• 純運転資本 = 流動資産 - 流動負債

† 損益計算書…収益、費用、減価償却費、純利益などが載る

• EBIT（利払・税引前利益） = 収益 - 費用 - 減価償却費

† 資金収支表…資金源泉、資金使途が載る

• 資金源泉 = 営業キャッシュフロー + 長期債の新規発行 + 株式の新規発行

• 資金使途 = 純運転資本への投資 + 固定資産への投資 + 株主への配当支払い

29. 3 EP 社の財務状況を測る

† EP 社はいくらの借入れをしているか

$$\text{負債比率} = \frac{\text{（長期負債} + \text{リースの価値）}}{\text{（長期負債} + \text{リースの価値} + \text{株主資本）}}$$

$$\text{負債/株主資本比率} = \frac{\text{（長期負債} + \text{リースの価値）}}{\text{株主資本}}$$

$$\text{金利支払能力} = \frac{\text{（EBIT} + \text{減価償却費）}}{\text{支払利息}}$$



† EP 社にはどれだけ流動性があるか

$$\text{流動比率} = \frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$$

$$\text{当座比率} = \frac{(\text{現金} + \text{短期有価証券} + \text{売掛金})}{\text{流動負債}}$$

$$\text{現金比率} = \frac{(\text{現金} + \text{短期有価証券})}{\text{流動負債}}$$

† EP 社は資産をどれだけ生産的に活用しているか

$$\text{総資産回転率} = \frac{\text{売上高}}{\text{平均総資産}}$$

$$\text{棚卸資産回転日数} = \frac{\text{平均棚卸資産}}{(\text{売上原価} / 365)}$$

$$\text{売上債権回転期間} = \frac{\text{平均売掛金}}{(\text{売上高} / 365)}$$

† EP 社の収益性はどうか

$$\text{売上高利益率} = \frac{(\text{EBIT} - \text{税})}{\text{売上高}}$$

$$\text{総資産利益率 (ROA)} = \frac{(\text{EBIT} - \text{税})}{\text{平均総資産}}$$

$$\text{株主資本利益率 (ROE)} = \frac{\text{普通株式の株主が享受できる利益}}{\text{平均株主資本}}$$

$$\text{配当性向} = \frac{\text{配当}}{\text{利益}}$$

† EP 社は投資家に高く評価されているか

$$\text{株価収益率} = \frac{\text{株価}}{\text{一株当たりの利益}}$$

$$\text{配当利回り} = \frac{\text{一株当たりの配当}}{\text{株価}}$$

$$\text{時価/簿価比率} = \frac{\text{株価}}{\text{一株当たりの簿価}}$$

† デュボン・システム

$$\text{ROA} = \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{EBIT} - \text{税}}{\text{売上高}}$$

$$\text{ROE} = \frac{\text{総資産}}{\text{株主資本}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}} \times \frac{\text{EBIT} - \text{税}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{EBIT} - \text{税} - \text{支払利息}}{\text{EBIT} - \text{税}}$$



## 29. 4 財務計画

† 企業が財務計画を策定する際には、最も可能性が高い結末だけではなく、想定外のこともについても考える

## 29. 5 財務計画モデル

必要となる外部資本＝

$$\text{営業キャッシュフロー} - \text{純運転資本への投資} - \text{固定資産への投資} - \text{配当}$$

- 翌年の営業キャッシュフローを、収益が 20% 増加すると仮定し推計する。(＝①)
- 純運転資本と固定資産への追加投資額を推計し、配当の金額を推計する。(＝②)
- ①－②が新規に調達すべき額となる。
- 最後に資産の追加分と負債、株主資本それぞれの増加分を算入した形で貸借対照表の見積もりを作成する。

† 財務計画モデルにファイナンスは存在しない

- 1、ファイナンスの分析に用いる情報は重視されていないから。
- 2、モデルが財務的に最適な判断を下すための指標を与えていないから。

## 29. 6 成長と外部資金調達

$$\text{内部成長率} = \frac{\text{留保利益}}{\text{純資産}}$$

† サステナブルな成長率…企業が財務レバレッジを引き上げずに持続できる最も高い成長率のこと

$$\text{サステナブルな成長率} = \text{内部留保率} \times \text{株主資本利益率}$$

† コメント

- P336 の ROE の式がよく分からない。
- 財務諸表のおさらいだったので、良い復習になった。
- 科目の名前がころころ変わるのなぜなのかが気になった。(例 株主資本＝自己資本など)